

パソコン同好会プレゼント企画

自分のパソコンでカレンダーソフトを動かして見ましょう。
ダウンロードした凍結ファイル(ZIP)を動かしやすいところに開いてください。

1.ファイル構造

calendar_demo ファイルを圧縮から解凍しますと3つのファイルが格納されています。

- ① demo_buhin basiccalendar.js daystamp.js stylesheet_base.css 画像データ他
- ② demo_calendar.html カレンダーを定義しているテキストです。
- ③ year_calendar.html 一年間のカレンダーを定義しているテキストです。

2.カレンダーを開く

demo_calendar.html もしくは year_calendar.html をダブルクリックして開いてみましょう。
うまく解凍ができていましたら三ヶ月分 もしくは 年間のカレンダーが出てきます。

3.運用に関して

とりあえずは2013年度の祝日がセットされています。
プログラムの関係上、振り替え休日、春分の日や秋分の日は、毎年見直さなければなりません。

4.定義の変更に関して

demo_calendar.html ファイルを右クリックして プログラムから開く を選択し notepad で開きますと定義が変更できます。
訂正しても元に戻せるように解凍もとのファイルは、どこかにバックアップしておく便利です。

展開されたテキストの以下の部分を見直せばよいわけです。

```
<h3>JAVASCRIPTの例題</h3>
```

```
<h3>Basic Calendar</h3>
```

```
<!-- JavaScript copy start -->
```

```
<script type="text/javascript">
```

```
<!--
```

```
var dat=new Array()
```

```
dat[0]=[23,99,99,99,99,"天皇誕生日"]    // dummy 12月の祝日
```

```
dat[1]=[1,32,99,99,99,"元旦、成人の日"] //祝日:1/1 1/32 2/11 3/20or21 4/29 5/3 4 5 7/33
```

```
dat[2]=[11,99,99,99,99,"建国記念日"]    //        9/33 9/22or23or24 10/32 11/3 11/23 12/23
```

```
dat[3]=[20,99,99,99,99,"春分の日"]        //32:第2月曜日
```

```
dat[4]=[29,99,99,99,99,"昭和の日"]        //33:第3月曜日
```

```
dat[5]=[3,4,5,6,99,"憲法記念日、みどりの日、こどもの日"]
```

```
dat[6]=[99,99,99,99,99,""]                //春分の日(3/20or21)
```

```
dat[7]=[33,99,99,99,99,"海の日"]         //秋分の日(9/22or23or24)
```

```
dat[8]=[99,99,99,99,99,""]                //祝日と日曜日が重なる振替休日
```

```
dat[9]=[33,23,99,99,99,"敬老の日、秋分の日"]
```

```
dat[10]=[32,99,99,99,99,"体育の日"]
```

```
dat[11]=[4,23,99,99,99,"文化の日、勤労感謝の日"]    //毎月の五つ目の指定日(99)は誕生日などの設定になっています
```

```
dat[12]=[23,99,99,99,99,"天皇誕生日"]
```

```
dat[13]=[1,32,99,99,99,"元旦、成人の日"] // dummy 1月の祝日
```

プログラム内の訂正は、半角英数字で空白なども入らないように注意して訂正しないと誤動作を起こします。

99 は、定義されていないという意味にしています。
カンマで区切られたところをそのまま上から訂正すれば、エラーが防げます。

すべて見直したら ファイル(F)から上書き保存をしますと完了です。

5. 便利な使い方

前月と翌月の三ヶ月を一度に表示できるようにしています。
一月分だけ見たいときは、以下の定義文を訂正してください。

<!-- から -->までがコメント扱いになります。
前の !-- と後ろの -- を書き足して上書き保存すればよいわけです。(四箇所あります)

```
<!--script>
//document.write(buildCal(4 ,2013, "main", "month", "daysofweek", "days", 1,bag1,bag2,bag3,bag4,bag5));
if (curmonth == 1) document.write(buildCal(12 ,curyear-1, "main", "month", "daysofweek", "days",
1,bag1,bag2,bag3,bag4,bag5));
else document.write(buildCal(curmonth-1 ,curyear, "main", "month", "daysofweek", "days",
1,bag1,bag2,bag3,bag4,bag5));
</script--></td>
<td style="width:34%">
<script>
//document.write(buildCal(5 ,2013, "main", "month", "daysofweek", "days", 1,ag1,ag2,ag3,ag4,ag5));
document.write(buildCal(curmonth ,curyear, "main", "month", "daysofweek", "days", 1,ag1,ag2,ag3,ag4,ag5));
</script>
</td>
<td style="width:33%">
<!--script>
//document.write(buildCal(6 ,2013, "main", "month", "daysofweek", "days", 1,aag1,aag2,aag3,aag4,aag5));
if (curmonth == 12) document.write(buildCal(1 ,curyear+1, "main", "month", "daysofweek", "days",
1,aag1,aag2,aag3,aag4,aag5));
else document.write(buildCal(curmonth+1 ,curyear, "main", "month", "daysofweek", "days",
1,aag1,aag2,aag3,aag4,aag5));
</script--></td>
</tr>
<tr style="font-size:x-small;color:red;"><td><!--script>document.write(dat[curmonth-1][5]);</script-->
</td><td><script>document.write(dat[curmonth][5]);</script></td><td><!--script>document.write(dat[curmonth+1]
[5]);</script--></td></tr>
</table>
```

6. その他

document.write(buildCal(curmonth ,curyear, "main", "month", "daysofweek", "days", 1,ag1,ag2,ag3,ag4,ag5));
"days"の後の1が枠ありの指定です。これを0に換えますとカレンダーの内枠がなくなります。どちらが見やすいか比較調整下さい。
テキスト定義に慣れる事でインターネットで見られているホームページの作り方が理解できます。
自分のパソコン上で動けるものを、無料のサーバーといわれる、いつでも電源が入っているサイトにアップしてやればよいのです。
何度でも失敗してみましょう。訂正箇所の保存のためには、バックアップを取ってください。

一年分のカレンダーは、year_calendar.html に定義してあります。毎年春分の日、秋分の日、振り替え休日を見直して変更
上書きして使ってください。